



南風原高等学校・南風原高等支援学校

なん ふう
南 風

校長だより

令和5年9月13日(水)
発行者 校長 西原 誠

第72回全国高等学校PTA連合会大会2023宮城大会参加報告

8月24日(木)25日(金)、宮城県仙台市で「豊かな杜につむぐ虹の光～しなやかな強さで生き抜く力～」をテーマに全国高P連大会が開催されPTA役員と共に参加して参りました。

1日目の分科会は、「地域教育の魅力化」をテーマに、変革の激しい時代を乗り越えるための教育について講演やパネルディスカッションがあり、その中で、学校教育地域教育、レジリエンス教育、主権者教育など事例報告や活発な意見の交換が行われました。高校生や学校に対しては、差別や不平等、ジェンダー問題、海洋汚染や気候変動多様性の毀損などの課題について考え、将来のキャリアと結びつけ、自己変容と社会変革のためのアクションをおこすことの重要性が強調され、「1人でできるものではなく、10人でできること、100人でできることを考えよう(考えさせよう)」と問題提起もありました。



2日目は全体会が行われ、夏の甲子園の準優勝校である仙台育英学園高校野球部の須江監督の講演がありました。「伝わる言葉～失敗から学ぶ～」をテーマに、個々の成長を通じた集団形成について語って頂きました。座右の銘『人生は敗者復活戦』を挙げ、選手としては芽が出ず、学生コーチを経験したという自身の高校時代を振り返り、自分の人生は勝ったり負けたりだと。敗者から多くのことを学び、勝負はこれからだと、強みに変えながら勝利に結びつけてきた経緯を話してくださいました。また、「伝わる言葉は相手が聞きたい言葉である」という持論も。情報量が多い時代であり、若い人は小さい頃から選択することに慣れていているとして、「相手が何を知りたいのか、聞くしかない」とコミュニケーションの重要性を語っていました。

昨年は優勝、今年は準優勝と、大活躍の監督とあって全国から約6千名の聴衆が参加し、会場は立ち見が出るなど、拍手拍手の大盛り上がりでした。

那覇みらい支援学校郷土文化交流会(9/13)

郷土文化コース2・3年生は県立那覇みらい支援学校に出向いて交流会を実施しました。「郷土文化コースの学習の成果と郷土芸能の作品を那覇みらい支援学校の生徒に披露し交流することで、コース生徒の意識の高揚を図る。さらに、伝統文化や芸能の継承について考える機会とし、今後の授業等における学習に活かしていき、より発展的に探求する。」を目的として授業の一環で行いました。那覇みらい支援学校の高等部・中学部・小学部から多数の児童生徒・職員の皆さんと本校の郷土文化コースの生徒25名、職員4名が参加しました。「四つ竹」や「豊年音頭」、「エイサー」等を演じ、また体験コーナーでは「琉球舞踊の衣装着付け」や「カチャーシー」等を取り入れ、那覇みらい支援学校の生徒たちも満面の笑顔で楽しそうにノリノリで全身を動かしていました。双方にとって素晴らしい貴重な交流会が持てました。



就業支援キャンプ(9/7)

県教育委員会が主催し、企業等への訪問を通して、障害児(者)への理解・啓発を高め、雇用等の拡大や特別支援学校高等部卒業生の進路決定率の向上を図ることを目的に実施している。本校から與那覇歩くん(2年)、上運天政晴(3年)が参加。県庁1階で行われた出発式では與那覇くんが堂々と決意表明してくれた。また「あんしん」訪問では上運天くんが就労への意気込みと親孝行したい旨、こどもも立派な挨拶をしていました。

(頼もしい・・・)

